

著者は皮膚移植と再移植との關係即ち皮膚移植陽性なりし家兎に第Ⅱ回再び皮膚移植を行ひ(A群)、擧丸移植陽性なりし家兎に第Ⅱ

野 津 芳 孝

皮膚内移植癌腫の實驗的研究(VI) 家兎癌腫の皮膚内移植による重複移植に就て

皮膚科紀要 第二十七卷第四號

著者は腸「チフス」菌「ワクチン」による經肛免疫に於て一、二の前處置を試みて抗原吸收(抗體產生)の狀を檢した。主として牛膽汁による前處置について考察し、併せて赤痢菌(フレキシナー菌)「ワクチン」薬用石鹼液灌腸、饑餓(二晝夜絶食)等による前處置についても小實驗を行つた。

水 谷 明 雄

經肛免疫に關する實驗的研究(II) 腸「チフス」菌「ワクチン」による經肛免疫に於ける一、二前處置に就て

百日咳菌に類似せる「インフルエンザ」菌を使用して百日咳菌に於けると同様の實驗を行ひ殆ど百日咳菌「ワクチン」使用の場合と相似たる結果を示すが唯「インフルエンザ」菌と百日咳菌の同一量注射せし場合前者による免疫凝集素の產生は後者に比し弱く、且つ其の最高價は著しく低く、免疫凝集素の產生時期並に最高凝集價出現時期は、後者の方幾分遅れる様である。

金 内 三 郎

回移植として皮膚移植を試み(B群)、或は皮膚移植陽性家兎に第Ⅱ回移植として擧丸移植を試み(C群)、これ等3群の間に於ける免疫的影響の如何を考察す。

經肛免疫に關する實驗的研究(III)

腸「チフス」菌「ワクチン」經肛免疫に於ける第二回免疫乃至第三回免疫に就て

水 谷 明 雄

腸「チフス」菌「ワクチン」の灌腸により家兎を經肛的に免疫し、之によつて生ずる血中抗體の著しく減弱する時第Ⅱ回免疫を施し、第Ⅱ回免疫によつて生ずる抗體の著しく減弱する時第Ⅲ回免疫を施し抗體形成狀況を比較檢索し、第Ⅱ回及第Ⅲ回免疫による抗體產生は第Ⅰ回免疫時に抗體產生良好なりしものに於ては然らざるものに於けるよりも佳良である。

而して抗體產生の程度と使用菌量は必ずしも平行せぬと。

百日咳菌並に「インフルエンザ」菌の免疫學的研究(IV)

百日咳菌「ワクチン」塗擦による經皮免疫に就て

金 内 三 郎

百日咳菌「ワクチン」の塗擦免疫家兎に於ける免疫體產生出現時期は、注射免疫の場合に比し一般に遅く、免疫凝集素は免疫開始後七日目の檢査に於て輕度に其の產生を證明するのみにして、補體結合素は免疫開始後七日目の檢査には認められず、十四日目に證明された。

百日咳「ワクチン」皮膚塗擦免疫効果と百日咳菌「ワクチン」の濃度